

2013. 8. 30

文部科学省国立教育政策研究所(NIER)・独立行政法人国際協力機構(JICA)地球ひろば共同プロジェクト  
「グローバル時代の国際教育の在り方国際比較調査」

国際シンポジウム

「グローバル時代の初等中等教育を考える  
ーグローバル人材育成についての日本への示唆ー」

# 日本の教育課程の現状と 本シンポジウムへの期待

国立教育政策研究所  
教育課程研究センター長

勝野 頼彦

1

## 目次

1. 日本の近年の教育政策と教育課程の課題
2. 国立教育政策研究所「教育課程の編成に関する基礎的研究」プロジェクトについて
3. 本シンポジウムへの期待

2

## 1. 日本の近年の教育政策

- 世界的にみても早い資質・能力目標の導入
  - 自己教育力(1983)、新しい学力観(1989)、生きる力(1998, 2008)
- 教科など教育内容の新設、教育方法の例示
  - 「生活科」(1989)、「総合的な学習の時間」(1998)
  - 「言語活動の充実」や「問題解決型学習の重視」、「児童による学習課題の選択」(2008)
- グローバル人材育成の観点からの見直し
  - 中教審答申や教育振興基本計画における「グローバル社会」、「知識基盤社会」への言及
  - 「学士力」、社会人就業力(「就業基礎能力」、「社会人基礎力」など)など、社会的な要請

3

## 1. 日本の教育課程の検討課題

- 資質・能力目標が学習指導要領などに、いかに明記され構造化されているか
- 教育内容・方法が資質・能力育成に及ぼす効果の実践例を基に、いかなる改善案を提案できるか
- グローバル社会をどう捉え、必要となる資質・能力をいかに選択・定義するか

4

## 2. 「教育課程の編成に関する 基礎的研究」プロジェクト(2009~2013)

- 目的：
  - これからの社会で求められる資質・能力を教科・領域横断的に育てたい汎用的な資質・能力として提起し、資質・能力と知識・技能を結びつけるための教育課程編成の基本原理や具体案を提案する
- 内容：
  - グローバル社会の動向分析
  - 諸外国の教育課程編成の動向調査
  - 国内外の教育実践例分析
  - 編成原理や教育目標他の試案作成

5

### 2. (1) 諸外国の教育課程編成の動向

- 変化の激しい社会を生きるためのコンピテンシーに基づく教育課程が主流
  - OECDのキー・コンピテンシーの流れと、アメリカを源とする21世紀型スキル運動の流れ
  - 「知っていること」より「できること」(資質・能力)
  - 「基礎的リテラシー」、「高次認知スキル」、「社会スキル」の三層構造

6

(参考) 諸外国の教育改革における資質・能力目標

DeSeCo	EU	イギリス	オーストラリア	ニュージーランド	(アメリカほか)
キーコンピテンシー	キーコンピテンシー	キースキル と思考スキル	汎用的能力	キー コンピテンシー	21世紀スキル
相互作用的 道具活用力	言語、記号の 活用	第1言語 外国語	コミュニケ ーション	リテラシー	言語・記号・テキスト を使用する能力
	知識や情報の 活用	数学と科学技術の コンピテンス	数字の応用	ニューメラー	
	技術の活用	デジタル・ コンピテンス	情報テク ノロジー	ICT技術	
反省性(考える力) (協働する力) (問題解決力)	学び方の 学習	思考スキル (問題解決) (協働する)	批判的・ 創造的思考力	思考力	創造とイノベーション
					認知的スキル
自律的 活動力	大きな展望 人生設計と個人 的プロジェクト 権利・利害・限界 や要求の表明	道徳の精神 と起業精神	倫理的行動	自己管理能力	キャリアと生活
	人間関係力 協働する力 問題解決力	社会的・市民的コン ピテンシー 文化的気づきと表現	問題解決 協働する	個人的・ 社会的能力 他者との関わり 参加と貢献	社会的責任 シティズンシップ

基礎的  
リテラシー

認知的スキル

社会スキル

2. (2) 国内外の教育実践例分析

• 文部科学省指定研究開発学校の分析

分析対象として、約130校から特徴的な20事例を抽出して詳細分析

社会の動向や様々な教育課題に応えるため、様々なスキルや能力が具体的に提起され、それらの育成を目指した授業が実施されている。

- 教科領域横断的な能力と教科に固有な能力とを区別し、汎用的な資質・能力を構造化して示す必要
- 「知」の面(思考力、判断力、表現力)と「心」の面(道徳性、市民性等)を関連づける全人的な教育課程が必要

事例: 言語と体験を重視し、発達段階に即した小中9年間一貫の教育課程を開発

→「言語技能科」「社会技能科」を新設・・・知と心の融合、各教科等との関連を意識

○言語技能科・・・日常生活に必要な様々なテキストを、学校生活や新聞等から構成し、問題解決型の読解・表現活動を実践することで、基礎力を育成

○社会技能科・・・問題解決への認知的なアプローチ、具体的な行動やスキルを学習する行動的なアプローチ、さらに感情の理解と対処を含めた情動的スキル学習を導入(自己理解、他者理解、他者との協働)

前期で情動的スキルの学習、中期で問題解決スキルの学習、後期で体験的な活動を中心に行い、それらを繰り返し経験することで、徐々に問題解決力と社会性の体得していくことを目指す

## 2. (2) 国内外の教育実践例分析

- 学習科学研究を対象とした実践例分析
  - 教科内容の学習(知識の習得・活用・探究)をもとに資質・能力を育成できる示唆
  - 学習方法及び教育目標としての協調過程(対話を通じて知識を構成する過程)の有効性

学習科学研究プロジェクトの目標例

プロジェクト	知識の獲得目標	資質・能力目標
WISE	熱と光、遺伝子組換など	日常的に科学を利用し、科学を学び続ける力
LBD	力学の3法則など	協調的な科学研究のスキル
FCL	食物連鎖など	読んだことを理解し統合してアイデアを生む力
T-tool	加速度等の力学	「科学する」ための心の理論
KF/KB	単元の習得目標	書くことによって考えを深める力
Jasper	速度計算、確率など	現実の中に問題を見つけ、学習成果を応用して解く力
LeTUS	淘汰圧と進化、気象など	モデル化によって現実を予測、判断する力

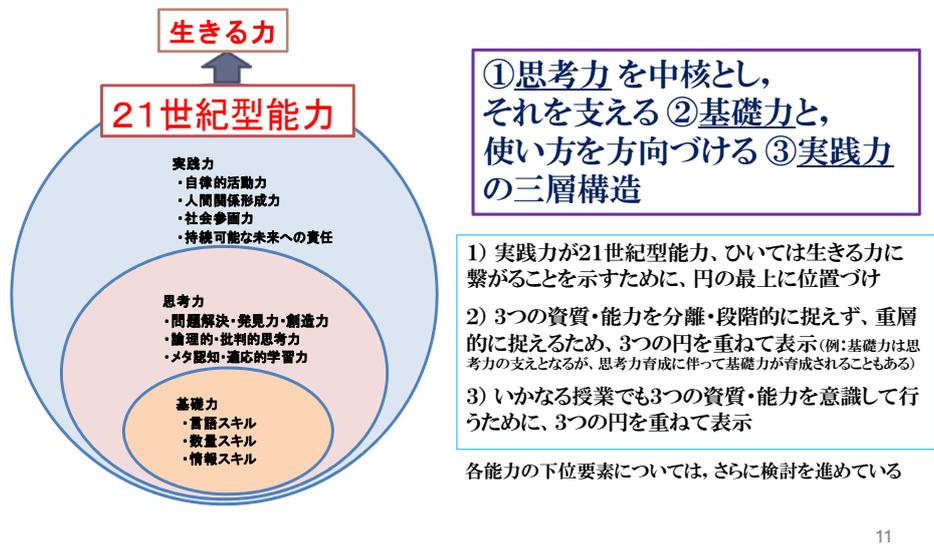
9

## 2. (3) 教育課程編成の原理

- I. 教育課程全体の目標として資質・能力目標を明示した上で
- II. 子どもが各教科・領域において深い学びを達成し
- III. 学習成果を統合することで、社会で生き抜き、社会自体をよりよい方向へと変えることができるための資質・能力を身に付けられるように教育課程を構造化する

10

## 2. (4) 「21世紀型能力」(仮称)の提案



11

## 2. (5) 今後の課題

- 資質・能力を育成する教育課程とそれに基づく授業づくりを可能にする包括的な制度設計
  - －教科と資質・能力の関係
  - －資質・能力に発達段階があるか
  - －評価の在り方との関係
  - －教師教育との関係
  - －地方、現場の裁量

12

### 3. 本シンポジウムへの期待

1. 資質・能力を育成する初等中等教育の在り方—教育目標やカリキュラム、評価といった教育課程全体のデザイン—はいかなるものであるべきかを考えたい
2. 上記の教育課程全体に対して、国際教育や市民教育、持続可能な発展の教育（ESD）といった特定の教育内容がどう位置づくのかを手掛かりとして、グローバル社会における教育課程を考えたい

13